



静岡県精神保健福祉センター

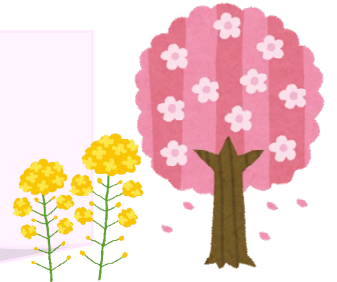
〒422-8031 静岡市駿河区有明町 2-20 静岡総合庁舎 別館 4 階

TEL : 054 - 286 - 9245 FAX : 054 - 286 - 9249

<http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-845/tayori-syohou.html>

<目次>

- ◆P1 <巻頭挨拶>
- ◆P2 <報告> 伊豆山土砂災害におけるこころのケアチームの活動報告
- ◆P3 <報告> ひきこもり支援従事者養成研修会、自殺未遂者ケア研修会
- ◆P4 <報告> PFA 研修、アルコール問題を抱える家族への講演会



<巻頭挨拶>

静岡県精神保健福祉センター所長 内田 勝久

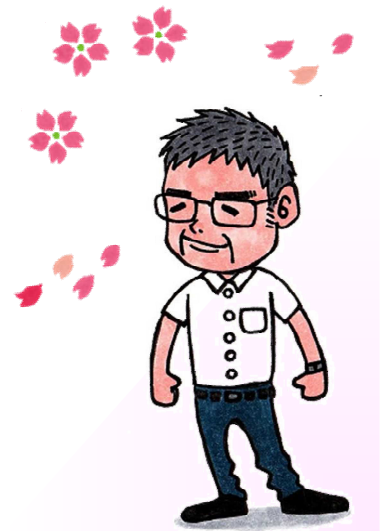
昨年7月、熱海市伊豆山地区で発生した土石流災害では多くの方が被災し犠牲になりましたことは、発災から半年以上経過した現在でも皆様の記憶に新しいことと思います。被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々やそのご家族様には深くお悔やみを申し上げます。

静岡県はこの災害において被災者の方々や被災地の救援に当たる方々に対するこころのケアを行うため、静岡県災害派遣精神医療チーム(静岡DPAT)を現地に派遣いたしました。これまでも他県の災害等に対しチームを派遣し活動することはあったのですが、県内で発生した災害での活動は初めてでした。発災当日のうちに県のDPAT調整本部が立ち上がり災害に対する情報収集を開始し、翌日から実際の精神医療活動を開始しました。

この活動は約2週間継続し、その後は「こころのケアチーム」として日赤こころのケア班や県公認心理師協会、県精神保健福祉士協会などの協力を得ながらやや規模を縮小した形で続けられました。今回の活動に協力していただいた関係各位様に対し、調整本部の一人としてこころよりお礼を申し上げます。

また、この一連の体験から改めて感じたのが、これまで幾度となく行われてきた防災訓練や過去の活動経験の大切さでした。さらに実際の活動に際していろいろな機関との連携が必要なため、それら各関係機関との普段からの関係性を良好なものに保っておくことの重要性も再認識いたしました。「天災は忘れた頃にやってくる」という戒めの言葉がありますが、私にとってはまさにその通りでした。皆様におかれましても、日頃からの災害に対する準備についてくれぐれも怠ることがないようにお願い申し上げます。

精神保健福祉だより No. 126 号をお届けいたします。上記のDPAT活動の詳細や本年度に当センターが主催した研修会等について報告をさせていただき、当センターが今年度どのような活動をしたのか、皆様の参考になりましたら幸いです。



<報告>伊豆山土砂災害におけるこころのケアチームの活動報告



<災害の概要>

令和3年7月3日に熱海市伊豆山の逢初川で土石流が発生し、下流で甚大な被害が発生。人的被害は、行方不明:1、死者:27名、負傷者:3名。住宅被害は、全壊:53棟、半壊:11、一部破損:34(令和4年2月10日現在)。※写真は熱海保健所でのミーティングの様子。



今回の派遣では、DPAT 活動拠点の立ち上げ、DAPT 隊員とともに避難所のメンタルヘルス支援を行いました。急性精神症状が出現したケース、精神疾患が悪化し家族支援が必要となったケースには熱海市の子育て支援課や保健師等と連絡を取りあい、DPAT とともに関係者で今後の支援の方向性を検討し、支援の引き継ぎを行いました。ホテルが避難所になっており、食事、衛生面、プライバシーが配慮されていると感じましたが、高齢避難者の孤立、ADL 低下など気になる場面もありました。

災害時の支援に当たり、応援に入ったチームとの平時からの関係づくり、役割分担や連携体制の構築等の必要性を強く感じた活動でした。(K)

私は、避難所のホテルに派遣され、支援に入りました。土石流災害から1ヶ月以上が経過しており、避難所が閉鎖となった後どうしていくかということ、避難されている方々が決めていかななくてはならない、という時期でした。支援に入る中で、被災した方々にとって、心も体も大変な中で、引っ越し先やその後の生活を決めなくてはいけないという状況はとても辛いものだということを強く感じました。

被災した方々に、少しでも力になれるように、また支援に入ることで皆さんに余計な負担を増やさないと心がけながら活動をさせてもらいました。被災した方々の状況が少しでも良いものとなっていくよう願っています。(I)

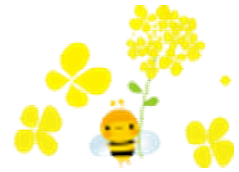
DPAT(災害派遣精神医療チーム)や日赤のこころのケアチームと一緒に7月7日から3日間、派遣されました。今回の災害は局所的な被害だったこともあり、街の機能はほぼ平常、交通機関、お店、学校なども一部をのぞいて稼働していました。そんな中、マスクミから狙われるので被災者が外出を躊躇しているという事を聞きました。特に、子ども達は狙われてしまうため学校に行くのを渋る子もいると。

体育館等の避難所とは違い、冷暖房や風呂、プライバシー確保などについては整っているホテル避難所でしたが、被災者が安心して生活できる場となるためにはこうした面についての環境調整も必要なことだと考えさせられました。(N)

私は7月26日に避難所ホテルに保健師として派遣されました。避難所では JMAT・JRAT・市町・県に所属する、医師・理学療法士・保健師・栄養士と共に、要支援者を訪問しました。訪室しても不在の場合も多く、例えば、実はデイケアに出かけていた要支援者の所在確認にも苦慮しました。また、職場に通い日中会えない家族とはノートにメモを残して連絡を取り合いました。日常と非日常の生活が交錯する慣れない環境で心身に不調を抱える方の話を聞き、課題をチームに報告し対応を検討しました。

初めての災害派遣でしたが、各チームや職種がよくコミュニケーションを取り、分担して行う災害時健康支援を肌で感じることができました。(Y)

<報告> 静岡県ひきこもり支援従事者養成研修会



日 時: 令和3年9月9日(木)10時~15時00分
内 容: ①講義、②事例検討
参加人数: 104人(オンライン開催)

宮崎大学教育学部教授の境泉洋氏を講師に招き、講義と事例検討を行いました。開催時期には、新型コロナウイルス感染拡大の影響で緊急事態宣言が発令されており、Zoomによるオンラインでの開催となりました。午前中は境泉洋氏から「ひきこもりに関する基礎知識、家族支援のためにCRAFTを学ぶ」をテーマに、ひきこもりの理解と対応のポイント、家族をどう支援していったらいいのかについて御講義いただきました。

午後は、架空事例を用いて、ひきこもり当事者や家族をどのように理解し、支援していったら良いかについて、グループワーク形式で話し合いをしました。研修参加者からは、講義がとてもわかりやすかった、今回の事例検討のような実践的な研修を企画して欲しい等の声が寄せられ、また研修がとても参考になったという声を多くいただきました。ひきこもり当事者や家族に対する支援の充実と、支援従事者のスキルアップを目的に、今後も研修会を開催していきます。

<報告> 静岡県自殺未遂者ケア研修会



日 時 : 令和3年11月14日(日)
10時~16時30分
内 容 : ①講義②ワークショップ③行政説明
参加人数 : 30人(会場+オンライン)

静岡県では、自殺未遂者対策の一環として平成25年度から精神科医療機関及び保健所等を対象に自殺未遂者ケア研修会を開催しています。

沼津中央病院杉山直也先生の御協力を賜り、精神科チームのスキルアップを目指して、国主催研修と同じ内容で開催しています。昨年度はコロナの影響で講義のみとしましたが、今年度は感染対策をとりながらワークショップまで行い、コロナ関連の影響を踏まえた新しいシナリオで症例検討を行いました。参加者からは、「多職種の話し合いが良かった」「ガイドラインに沿ったトリアージの必要性の理解が深まった」との感想が聞かれました。多職種でのディスカッションや総合討論を通して現場での実践に活かす機会となりますので、今後もスキルアップを目指して取り組んでいきたいと思っております。

<報告>サイコロジカル・ファーストエイド(PFA)研修



令和3年 11月 18日(木)、東北医科薬科大学の福地成先生を講師に招き、サイコロジカル・ファーストエイド(PFA)研修をオンラインで開催しました。市町、健康福祉センター、静岡 DPAT 指定病院など計 78 人が参加し、PFAの概論、PFAの活動原則(ケースシナリオ)、セルフケアと支援者へのケアについて、チャットで意見を交換しながら講義を受けました。

「被災者が多く支援者数が限られる際はどのように対応すれば良いか。」という参加者からの質問に対し、講師からは「**被災者の優先順位を決めて対応する。特に SOS が出せない人の優先順位が高い。被災者でも自分で自分のことを対処できる人は優先順位は低くなる。他の人をサポートできる被災者もいるため、探して力を借りることもできる。**」と回答がありました。

参加者からは「熱海災害支援での自分の対応を振り返ることができた」といった感想もあり、参加者の災害派遣に対する意識が高いタイミングで研修を開催することができ良かったと感じました。参加者には、若手や事務職であっても熱海の災害派遣にて避難所の被災者支援を行った者もあり、派遣経験のある職員にとっては自分の支援を振り返り、これからの職員にとっては PFA の考え方を学び、実働に備えることができた研修だったと考えられます。

<サイコロジカル・ファーストエイド(PFA)とは？>

心理的応急処置と訳される、災害等の際に被災者へ対応する際の基本的な姿勢。



<報告>アルコール問題を抱える家族への講演会

静岡県精神保健福祉センターは、依存症対策として主に、個別面談による依存相談、依存症当事者の方がグループで回復を目指すリカバリーミーティング、家族向けの講演会、支援者向けの研修を行なっています。家族向けの講演会は令和2年度に始まり、今年度は令和3年 10月 12日(火)に中遠総合庁舎にて開催しました。静岡福祉大学福祉心理学科教授長坂和則氏に御講演をいただき、体験談の語り手として静岡県断酒会理事長小泉登資氏、静岡県断酒会家族小泉京子氏にお話しいただきました。その後、参加された御家族で分かち合いを行ないました(分かち合いとは、言いつばなし聞きつばなしでお気持ちを話される場です)。

コロナ禍で家庭での酒類の消費量が増加しています。家庭内でアルコールの問題が増えたことで、問題が顕在化しにくくなっていることも懸念されます。本人や御家族ができるだけ早く適切な支援につながる事が大切です。そのために、アルコール問題に関する正しい知識を普及し、気持ちを吐き出す場を提供していくことが重要であると感じています。



- ★ 依存相談、リカバリーミーティングの利用をご希望される方は、
- ★ 静岡県精神保健福祉センターまでご連絡ください。
電話:054-286-9245
- ★ 平日(祝日、年末年始を除く)8時 30分~17時